

「1.27ネバダ・デー」ヒロシマからのアピール

1951年1月27日、アメリカ・ネバダ核実験場で初めて核実験が行われました。それから33周年にあたる1984年1月27日、米国・ユタ州シーダー市の「シティズンズ・コール」(ジャネットゴードン代表)の呼びかけで、全米各地で反核集会が開催されました。イギリス・カナダ・マーシャル諸島などへも広がり、広島県原水禁もこの日、核実験全面禁止を求める国際連帯行動として、原爆慰霊碑前で座り込みを行いました。その後、この日を「ネバダ・デー・国際共同行動日」として世界で取り込まれるようになり、以降、広島では毎年、座り込み行動を続けています。

戦後の冷戦体制の終焉とそれに先立つ1987年米ソによる中距離核戦力(INF)全廃条約の締結により核兵器開発に対する一定の制限が行われてきました。

しかし、2019年の米トランプ前大統領によるINF全廃条約からの一方的な離脱、さらには、批准国の軍事施設を上空から相互に偵察できる領空開放(オープンスカイ)条約も米ロ両国ともに離脱しました。新戦略兵器削減条約(新START)のみが、両国間で唯一残された核軍縮の枠組みであり、核超大国の核廃絶・軍縮への動きはむしろ後退していると言わざるを得ません。

一方で、核兵器の廃絶を求めて2017年7月に国連で採択された「核兵器禁止条約」は、2021年1月21日に発効し現在59の国と地域が批准するなど、国際世論は大きく核廃絶へと動き始めています。しかし、ここでも核保有国は条約に背を向けるばかりか、「唯一の戦争被爆国」である日本政府も「安全保障政策上」を理由に条約への署名・批准を行わないとしています。

私たちは、改めて日本政府が直ちに「核兵器禁止条約」に署名・批准することを強く求めるとともに、核と平和の問題を訴え続けてきた被爆地ヒロシマの市民として、「核と人類は共存できない」という先達の言葉を心に刻み、全世界に訴えます。

◆ネバダを始めすべての核実験場を閉鎖させよう！

◆核保有国と「核の傘」の下にある国々は、直ちに核兵器禁止条約に参加し、核兵器開発・核実験全面禁止を実現させよう！

◆東北アジアの非核地帯化と非核三原則の法制化を実現しよう！

◆世界のヒバクシャと連帯し、ヒバクシャの人権を確立しよう！

◆原発の再稼働、新增設に反対し、核に頼らないエネルギーに転換しよう！

◆ノーモア ヒロシマ！ ノーモア ナガサキ！ ノーモア ウォー！

2022年1月27日

「1.27ネバダ・デー」市民行動一同